

乾燥地の植物とその利用（４）



Al Ain (Suleimat) 周辺の砂丘

今回は砂丘とその周辺の主な植生に注目してみます。沙漠と言うとどうしても砂丘の山が延々と続き、ラクダがのんびりと餌を食べている景色を思い浮かべてしまいます。その砂丘は土漠の上に乗っているという形で、風によってゆっくりと移動している砂丘も見られます。また砂は周辺地にも広がって、農地や道路などに堆積してしまうこともあります。Al Ain 周辺の砂丘砂は非常に粒径がそろい、表面が酸化鉄で覆われている

ためきれいな赤みがかった色を呈しています。砂丘地で最もよくみられる植物は、イネ科の *Cyperus conglomeratus* です。また *Hammada elegans*、*Haloxylon salicornicum* そして *Panicum turgidum* も砂丘地を代表する草本植物です。木本では、砂丘中腹や周辺地で *Prosopis cineraria* を見ることがあります。*Cyperus conglomeratus* の根は非常に長く、また根の表面を綿のような成分で覆い、水分を取りやすい工夫をしています。

1) *Cyperus conglomeratus*



用途：ラクダの餌。

特徴：湾岸地域ではどこの砂丘地でも見られる。多年生植物で草丈は 60cm 程度。若い時は緑色であるが、種子は熟するころになると褐色味を帯びてくる。種は初冬（12～1月頃）に落ちる。

生育条件：砂丘地に多く見られること、また海岸地域でも見られることから、耐乾、耐塩性は強いものと思われるが、報告例が非常に少ない。



2) *Hammada elegans*



生育条件：固定砂丘地や土漠地に生育する。発芽力は非常に強い。生育環境などについての報告例が非常に少ない。

用途：ときどきラクダが餌にしている。木質部分は燃料として利用。

特徴：砂丘地というよりも、砂丘地周辺の多く見られる多年生の植物。新芽は緑色をして、ジューシーだが、成長とともに木質化していく。茎には年輪が見られる。開花時期は9～10月頃で開花と着果は同時に始まる。花は黄色で、種はピンク色・白・褐色の羽根状。

